

(追加)

泰山刻石 (22 ページ)

前 219 年作 山東省泰山の岱廟蔵 本来 222 字あったが
10 字だけが残っている。拓本には 10 字本、29 次本、53
字本と 165 字本が伝わっている。始皇七刻石の一つ。
始皇帝自らの頌徳碑。李斯の書と撰文。

丞相^{じやうしやうしんし}臣^{しん}去疾^{きよしつ}、御史大夫^{ぎよしだいふしん}臣^{とく}徳^{まいし}、昧死^{まいし}して言う。

(訳) 丞相の李斯、臣の去疾、御史大夫の臣や徳らは、
死を恐れずに言う。

金石^{きんせき}の刻辞^{こくじ}、始皇帝^{しやうてい}と称^{しょう}せず、其^その久遠^{きゆうおん}に於^おける也^や、
後嗣^{こうし}之^{これ}を為^{つく}る者^{もの}の如^{ごと}し。

(訳) 金石の刻辞には、始皇帝となっていない。後世に
なると、あとの皇帝が作ったと思われるかもしれない。

瑯琊台刻石^{ろうやたいこくせき} 前 219 年作
北京の中国国家博物館蔵
字数 280 字
13 行 86 字が残っている。



始皇七刻石 (秦刻石)

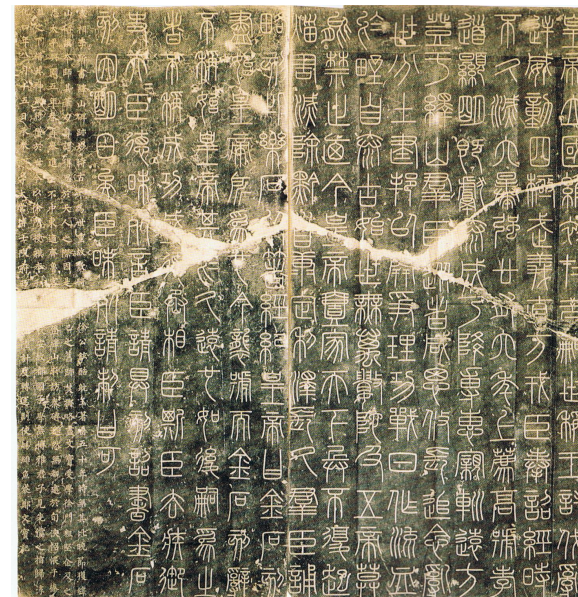
始皇帝が秦国と始皇帝の徳を讃えるために 6 ケ所に建てた七基の石碑の総称^{しょうてん}。小篆^{しょうてん}で書
かれている。李斯の書と撰文と伝えられている。残存しているものは「泰山刻石」と
「瑯琊台刻石^{ろうやたいこくせき}」の 2 基だけである。秦の征服地である東方・南方の地域に建碑し、秦の
絶対的権力を見せつける目的のために作られたと考えられる。

泰山刻石刻文 (現代語抄訳)

皇帝が位につかれて、制度を作り法律を明らかにし、臣下は整え修めた。二十六年(紀元前 221 年)、
初めて天下を併合し、服従しないものはなくなった。皇帝は…巡幸し、この泰山に登り…。従臣は皇
帝がなされた事を思いしたい…。つつしんで功德をとなえる。…大義ははっきりあらわれ、後世に垂
れ示され、後の世に継承されて改めることがないように。皇帝…天下を平定し政治をおこたらなかつ
た。早朝に起きて深夜に寝、永久の利益を建設して、ひたすら教誨をさかんにされた。…常法はのべ
伝えられ、遠近もすべておさまり、みな皇帝の意志を体した。…清浄でないものはなく、子々孫々に
ほどこして、徳化はつきることがないように。後の者は遺詔をささげ守り、永久に受け継いで重く戒
めとすべきである。二世皇帝いう。金石の刻辞は、ことごとく始皇帝が作られたものである。今、私
が皇帝の称号をついだが、金石の刻辞には、始皇帝となっていない。後世になると、あとの皇帝が作
ったと思われるかもしれない。始皇帝の成功盛徳を称することにならないのであると。…詔書をつぶ
さに刻せば、金石の刻は、それがために明白となるでしょう。…



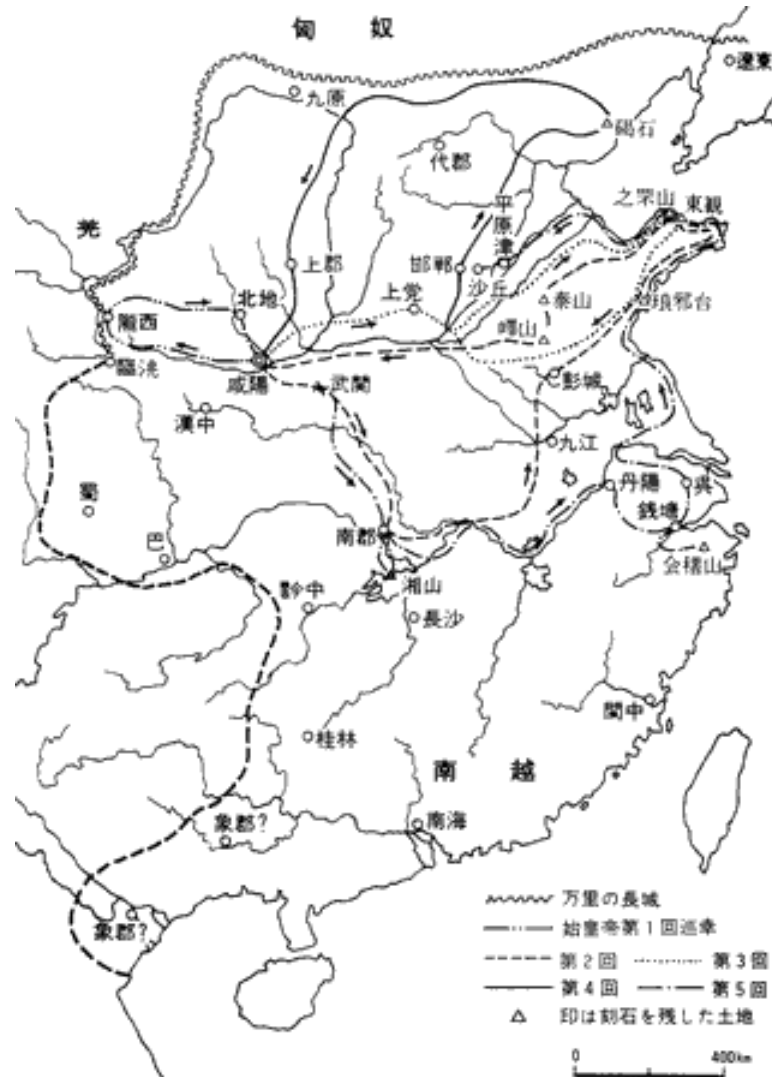
嶧山刻石 (前 219)



北宋代の 993 年に作られた(西安碑林蔵)
原石は焼失。
一句四字で全 36 句から成る。

嶧山刻石模刻 拓本

始皇帝 巡幸コース地図



始皇帝 六国併合地図



始皇帝像



始皇帝の兵馬俑坑の将軍像



始皇帝の兵馬俑坑 弓兵



始皇帝の兵馬俑坑の銅車馬

かくてんそかん
郭店楚簡（老子甲）

前4世紀頃～前3世紀初

郭店楚簡は、1993年の冬、湖北省荊門市郭店一号楚墓より竹簡840枚が出土した。そのうち文字が記されたものは730枚で、字数は1万2000字を超え、楚国の領土から出土した簡数では最多である。この一号楚墓は楚国郡に位置し、墓葬年代は、墓葬形態や出土器物の特徴などが包山楚簡、江陵雨山楚簡に類似点があることから戦国中期（紀元前4世紀中頃～3世紀初）の頃とされている。郭店楚簡の記載内容は、老子の甲・乙・丙などを含めた16種で、文字は典型的な楚国文字であり、この時代の文字研究に欠かせない貴重な資料である。



りんきぎんじゅくさんちくかん
臨沂銀雀山竹簡（先秦時代）

臨沂銀雀山竹簡は、1972年に山東省の臨沂市内にある銀雀山漢墓から出土した竹簡で、その大多数が兵法書である。この銀雀山漢墓からは4992枚もの先秦時代の竹簡が出土し、この発見は中国近代10大考古発見の一つに数えられる。その墓葬年代は前漢の武帝初期頃のBC140～118年と推定され、兵法書はそれ以前に書写されたと思われる。

図版は臨沂銀雀山竹簡の『孫子兵法』（銀雀山漢墓竹簡兵法書ともいう）で、書写内容は兵法に関するものである。この他に『孫びん（月＋賓）兵法』、『六韜』（注：参照）、『尉繚子』、『管子』、『晏子』、『守法守令等十三篇』などがある。この発見により、『六韜』や『尉繚子』が前漢前期に既に伝えられていたことが判明した。

書写された書体は古隸に属し、書風には『孫びん兵法』、『尉繚子』、『晏子』などに見られる横画を水平に伸ばし、字形を厳粛に守って書いているのが特徴である。簡の所々で文字の一箇所手脚の長い画を入れているのが見られる。

注：六韜とは文韜・武韜・竜韜・虎韜・豹韜・犬韜で、周の太公望の撰と称せられる兵法の奥義書である。

